

【新規調査】「ペットボトル入りの水」に関する意識

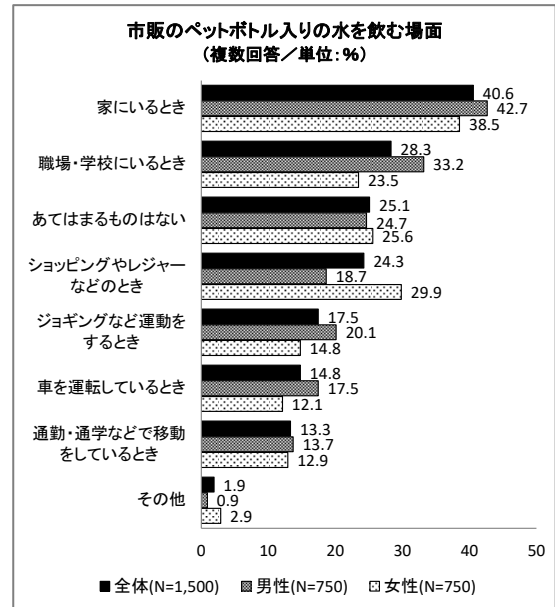
軽くて丈夫なプラスチックは、その汎用性と利便性の高さから幅広い分野で使われ、今では私たちの暮らしに欠かせない存在となっています。その一方で、過剰な使用による処理問題や海洋プラスチックごみ問題などの課題もあり、日本でもその課題への取り組みの一步として、今年7月1日からレジ袋有料化がスタートしました。そこで今回、世界的な脱プラスチックの流れがある中で、今後、飲料水への意識がどのように変わっていくのかを継続的にみていく趣旨で、水とプラスチックの関わりの象徴ともいえる「ペットボトル入りの水」に焦点をあてた意識・実態調査を行いました。

Q.市販のペットボトル入りの水を飲む場面は？ (6択+その他+あてはまるものはない)

◇4割超が「家にいるとき」に飲んでいる。

市販のペットボトル入りの水を飲む場面は、「家にいるとき」が全体の4割を超える回答（40.6%）で最も多く、「職場・学校にいるとき」（28.3%）、「ショッピングやレジャーなどのとき」（24.3%）と続きました。

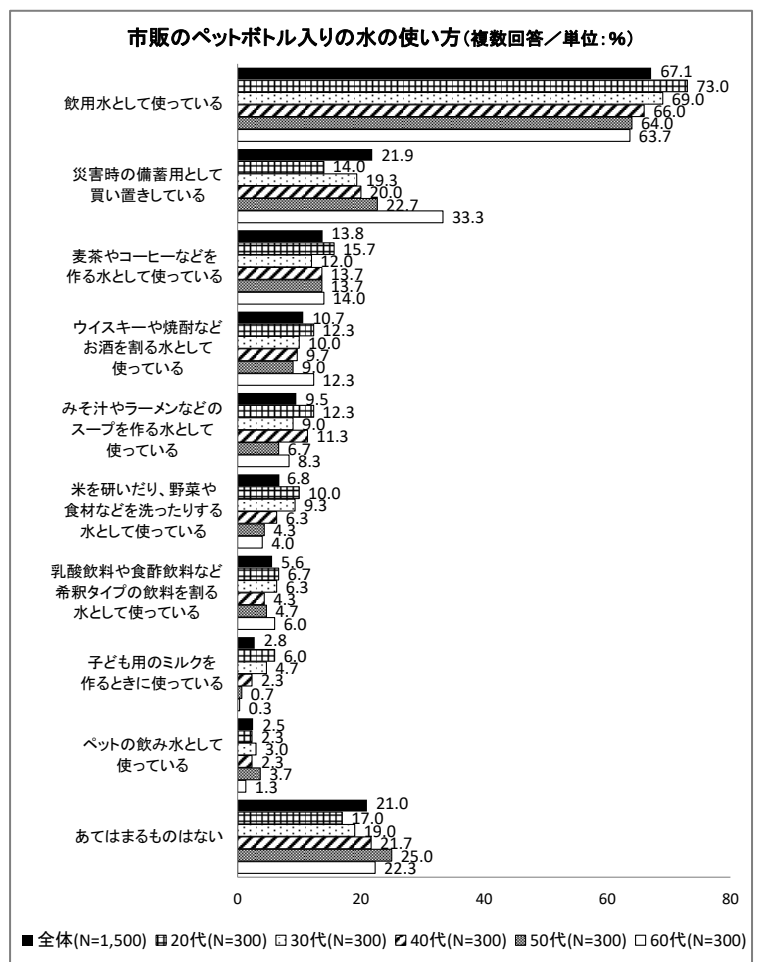
性別で見ると、トップはいずれも「家にいるとき」でしたが、男性は「職場・学校にいるとき」が33.2%で2位（女性は23.5%で4位）だったのに対し、女性は「ショッピングやレジャーなどのとき」が29.9%で2位（男性は18.7%で5位）と、男女の違いが見られました。



Q.市販のペットボトル入りの水の使い方は？ (9択+あてはまるものはない)

◇飲用目的以外で多かったのは「災害時の備蓄用として」。

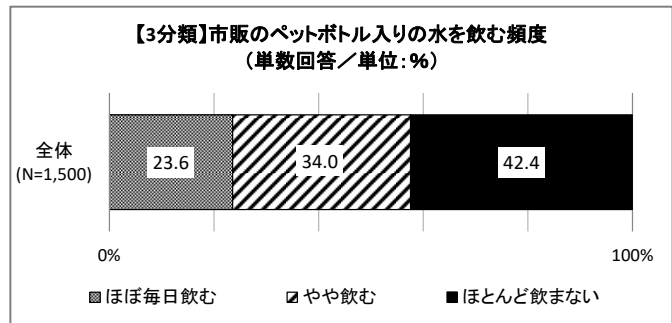
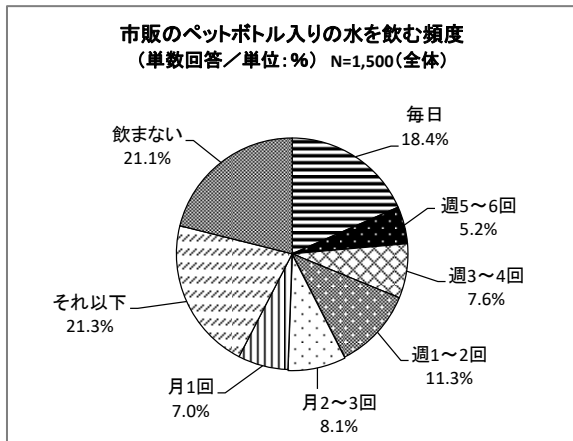
市販のペットボトル入りの水の利用方法について、ボトルのサイズや使う場所を限定せずに聞いたところ、「飲用として」が全体の67.1%で断然の1位。飲用目的以外では、「災害時の備蓄用として」が21.9%となり、「麦茶やコーヒーなどを作る水として」（13.8%）や「ウイスキーや焼酎などお酒を割る水として」（10.7%）、「みそ汁やラーメンなどのスープを作る水として」（9.5%）といった調理関連の項目を上回りました。中でも60代は、「災害時の備蓄用として」が33.3%と他の年代より高く、10~20ポイント程度の差がありました。



Q.市販のペットボトル入りの水を飲む頻度は？（7択+飲まない）

◇月1回より少ない“ほとんど飲まない人”が4割超。

普段、市販のペットボトル入りの水を飲む頻度は、「毎日」が18.4%、「週5～6回」が5.2%、「週3～4回」が7.6%、「週1～2回」が11.3%、「月2～3回」が8.1%、「月1回」が7.0%、「それ以下」が21.3%、「飲まない」が21.1%となり、これを週5回以上の“ほぼ毎日飲む人”、週4回～月1回の“やや飲む人”、月1回より少ない“ほとんど飲まない人”に3分類すると、それぞれ23.6%、34.0%、42.4%でした。



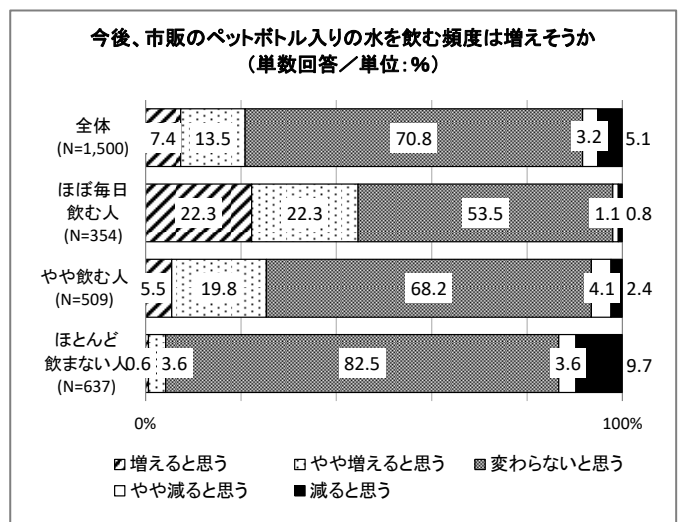
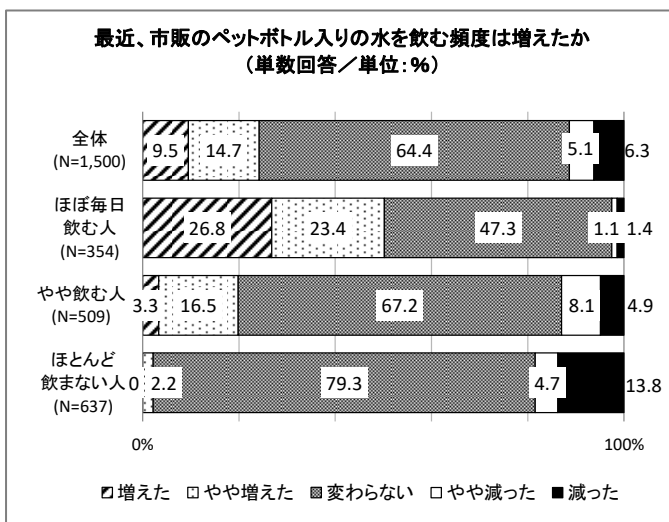
Q.最近、飲む頻度は増えたか？（5択）

Q.今後、飲む機会が増えると思うか？（5択）

◇増減傾向が飲む人と飲まない人で二極化？

市販のペットボトル入りの水を飲む頻度が最近増えたかを聞いたところ、全体では「増えた」が9.5%、「やや増えた」が14.7%、「変わらない」が64.4%、「やや減った」が5.1%、「減った」が6.3%でした。これを上記「普段の飲む頻度」の3分類別に見てみると、“ほぼ毎日飲む人”は「増えた」が26.8%、「減った」が1.4%だったのに対し、“ほとんど飲まない人”は、「増えた」が0%、「減った」が13.8%と、両者に差異が見られました。

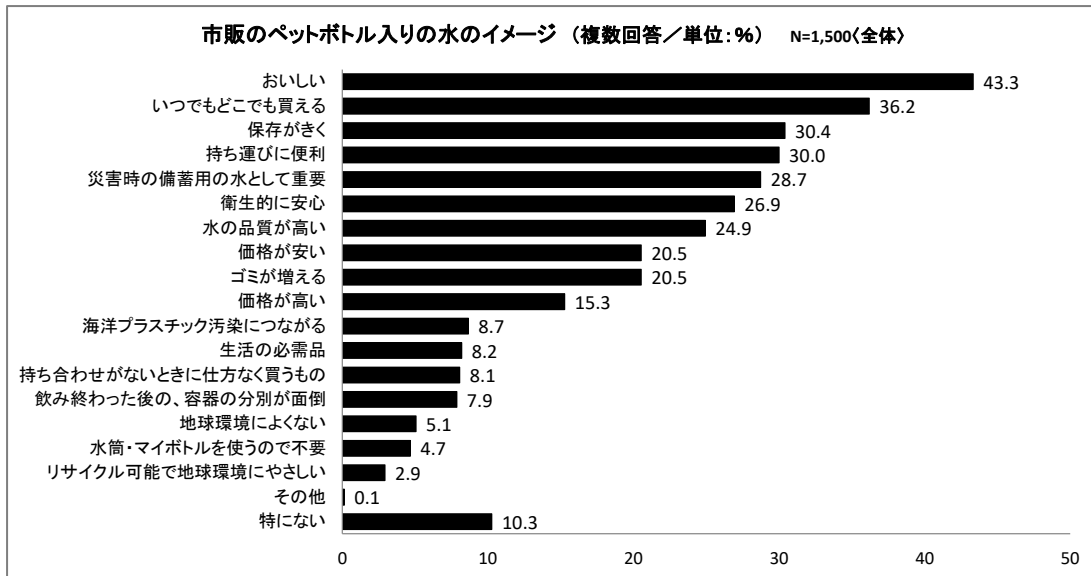
また、今後飲む機会が増えると思うかを聞いた設問でも、“ほぼ毎日飲む人”は「増えると思う」が22.3%、「減ると思う」が0.8%、“ほとんど飲まない人”はそれぞれ0.6%、9.7%と同様の差異が見られ、飲む人と飲まない人による傾向の二極化をうかがわせる結果となりました。



Q.市販のペットボトル入りの水のイメージは？（17択+その他+特にない）

◇おいしさ、利便性や保存性の良さなどポジティブなイメージが上位。

市販のペットボトル入りの水のイメージは、全体の1位が「おいしい」（43.3%）、2位「いつでもどこでも買える」（36.2%）、3位「保存がきく」（30.4%）、4位「持ち運びに便利」（30.0%）、5位「災害時の備蓄用として重要」（28.7%）と、いずれもポジティブなイメージが上位を占め、「ゴミが増える」（20.5%）、「価格が高い」（15.3%）、「海洋プラスチック汚染につながる」（8.7%）、「容器の分別が面倒」（7.9%）などのネガティブイメージは下位に留まりました。今後、これらの数値がどのように変化していくのか注目したいところです。



Q.飲む頻度別の飲用としての水道水10点満点評価は？ (0~10の整数を自由回答)

◇市販のペットボトル入りの水をよく飲む人は、水道水への評価が低い。

2013年より継続的に調査している「飲用としての水道水10点満点評価」を、市販のペットボトル入りの水を飲む頻度(3分類)別に見たところ、「ほぼ毎日飲む人」の平均は5.97点、「やや飲む人」は6.52点、「ほとんど飲まない人」は6.95点と、市販のペットボトル入りの水を飲む頻度が高い人の水道水評価の平均点が低く、「ほぼ毎日飲む人」と「やや飲む人」の点数は、全体の平均6.57点を下回りました。市販のペットボトル入りの水を飲む頻度と飲用水としての水道水評価の相関などを含め、今後の動向が気になるところです。

※全般的な水道水の10点満点評価は7頁参照

「市販のペットボトル入りの水」飲む頻度別

水道水10点評価(平均点)

ほぼ毎日飲む人 (N=354)	5.97
やや飲む人 (N=509)	6.52
ほとんど飲まない人 (N=637)	6.95
全体 (N=1,500)	6.57

日常の水意識

Q.家庭で1日に使っていると思う水の量は？ (11択)

◇“200リットル以下”の回答者が約8割。

家庭において、自身が1日に使っている水の量はどれくらいだと思うかを聞いたところ、「21~50リットル」(19.5%)が最も多く、「51~100リットル」(19.1%)、「11~20リットル」(12.4%)、「101~150リットル」(9.7%)、「10リットル以下」(8.9%)、「151~200リットル」(8.5%)と続き、これらを合計した“200リットル以下”の回答者が全体の約8割(78.1%)を占めました。東京都の家庭で、1人1日あたりの水使用量の平均とされる約220リットルが含まれる「201~250リットル」を回答した人は、6.2%に留まりました。

